

医療・介護・福祉・行政の多職種が連携し合い、住民の方が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられるよう必要な体制づくりに取り組んでいます。



薩摩郡医師会在宅医療相談支援センターだより

# ひまわり



第31号 令和3年9月  
編集・発行 薩摩郡医師会在宅医療相談支援センター  
TEL(代表) 0996-53-0326(内380)  
(直通) 0996-53-4711(FAX兼用)



第6回目の今回は、薩摩郡歯科医師会在宅医療・広報担当理事の福岡歯科医院院長福岡宏士先生にお願い致しました。お忙しい所ご協力ありがとうございました。

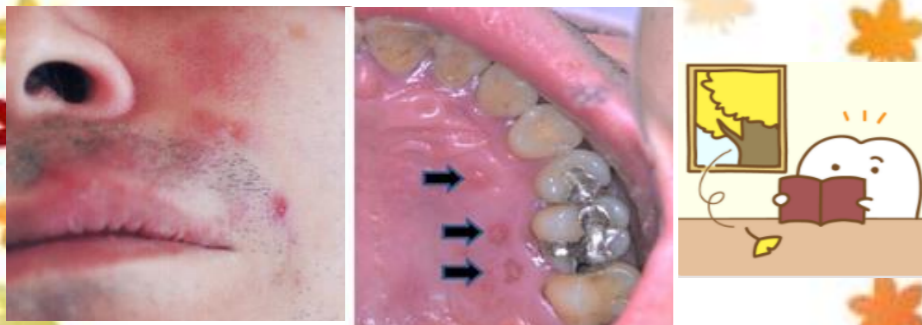
## 歯科受診で発見される带状疱疹について

いつも本会にご協力・ご助力いただきまして誠にありがとうございます。今回は歯科受診時に带状疱疹が疑われるケースについてご紹介させていただきます。带状疱疹は**初発が歯痛として出現することがあり、場合によっては入れ歯装着時の痛みとして発症することもあります**。原因不明の歯痛として経過観察中に、口腔粘膜・口腔周囲の皮膚に発疹が出現することもあります。**口腔内のみ出現し、皮膚には出現しない場合もあります。**

幼少期に罹患した水疱瘡のヘルペスウイルス(水痘带状疱疹ウイルス)が、神経内の付け根に潜伏し、過労・体調不良やストレス環境下等で発症します(回帰感染)。带状疱疹は体幹～上肢に比べ、頭頸部の発症頻度は17.6%と少ないですが、三叉神経支配領域である口腔領域にも発症し、特に口腔内で感染部が拡大した場合、摂食困難となる場合もあります。口腔内で発症する場合は、片側性に口蓋、歯肉および口唇に有痛性の水疱やびらんが多発します。**口内炎と自己判断して、口内炎治療薬(ステロイド)を塗布し、感染領域を広めてしまう方もいらっしゃいますので注意が必要です。**

在宅・施設入居者で、突然“食べなくなった”、“これまで問題なく使っていた入れ歯が使えなくなった”そのような状況があれば带状疱疹などの感染症の可能性もありますので、歯科受診を促しましょう。必要に応じて、医科医療機関へ紹介受診してもらうこともあります。今回は带状疱疹を例にご紹介しましたが、多職種連携が必要となる感染症は数多く存在しますので、今後も多職種間で情報共有していきたいと考えております。

(文責:薩摩郡歯科医師会 福岡 宏士)



歯の痛みを発症後、3日経過してから左側下顔面部と左側口蓋部に多数の斑点が出現し、医科で带状疱疹と診断を受けた例

## 令和3年度第2回さつまるネット研修会 テーマ:「訪問看護の現状と課題」



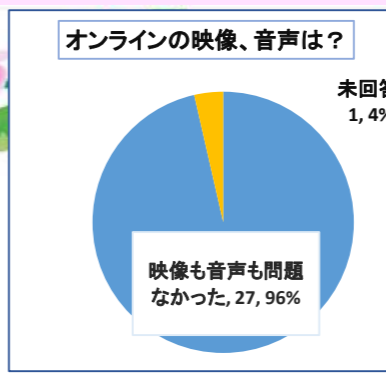
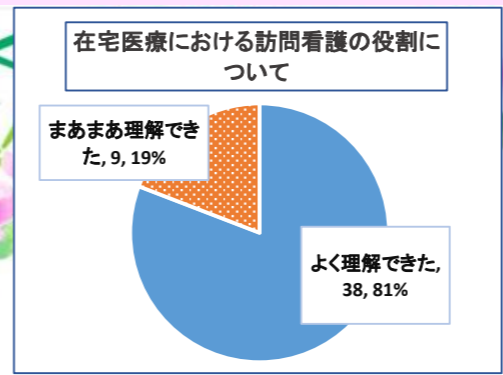
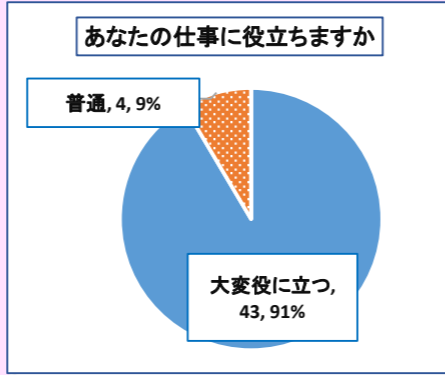
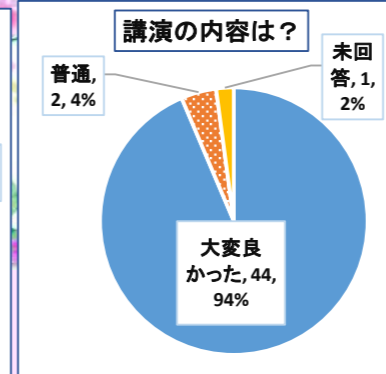
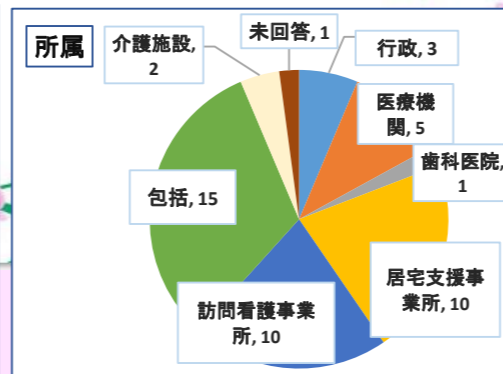
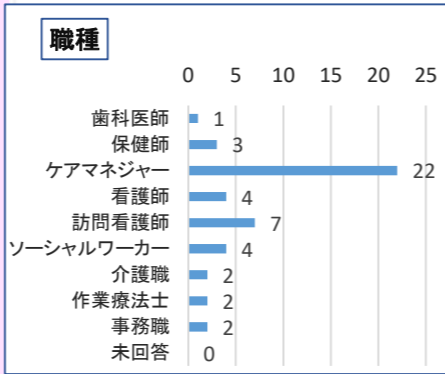
講演1:「在宅におけるターミナルケア・難病訪問看護について」  
講師:びっくすまいる訪問看護ステーション 管理者 柳田 千草 氏



講演2:「精神科訪問看護について」  
講師:訪問看護ステーションみずづ 管理者 新田 みずづ 氏



参加者数: 49名(会場19、オンライン30)  
アンケート回収数: 47名(回収率: 95.9%)



### ご意見・ご感想(一部ご紹介)

・その人の自分らしい生活を支えるために、どのようなことができるか。今後も各部署が連携協力しながらやっていければと思います。支援の原点に帰れた気がしました。  
・総合相談でのケース対応に、ターミナルや精神疾患疑いの事例も増えつつあります。包括でのケアプラン作成では、予防ケースでの経験しかなく、どのような支援の方向性があるかと悩む事があります。研修を通して、介護保険制度外の学びが必須であると感じています。  
・訪問看護の方の仕事内容や思いを聞くことが刺激になりました。最期を病院で過ごすか、病院と在宅を行き来するなど、いずれにしても自分たちができる、その利用者や家族にとって最善の支援ができればと思いました。  
・精神科訪問看護の話が聞けて良かったです。なかなか効果がみられるまでに長い年月がかかるのは、とても大変な事だと思いました。笑顔が見えたり、作業所に通った姿がみられるとやりがいが見えるんですね。とても勉強になりました。  
他たくさんのご意見ご感想を頂きました。

## 「令和3年度地域福祉推進研修会」で在宅医療やセンターの役割について説明



令和3年7月13日鶴田地区、7月15日宮之城東部地区、7月20日薩摩地区、7月21日宮之城中央地区、宮之城西部地区の民生委員児童委員、地域支え合い推進員等を対象に開催された令和3年度地域福祉推進研修会に於いて、在宅医療と在宅医療相談支援センターについてお話をいただきました。

研修会では、地域支え合い推進員の役割やコロナ禍における活動の留意点、地域見守りネットワーク支援事業、さつま町避難行動要支援者制度、さつま町地域包括支援センターの紹介についても説明がありました。新型コロナウイルス感染防止対策により、例年より参加者を制限して行われました。参加総数は249名でした。

### <センターより>

オンラインの導入により、少しずつ研修会や会議が開催できるようになってきました。7月9日に開催いたしました令和3年度第2回さつまるネット研修会には、オンライン参加を含め多くの方に参加して頂きました。

今回、お忙しい中、訪問看護についてご講演を行って頂いたお二人の講師の先生、参加して頂きました皆様誠にありがとうございました。

次回は、ACPIに関する研修会を10月26日に実施する予定です。ご案内は、再度文書にて行いますので、ご参加のほどよろしくお願いいたします。

また、先日実施いたしました、令和3年度在宅医療・介護提供状況調査に於きましては、お忙しい中ご協力頂き、誠に有難うございました。

